



教授の呟き

第57回

業務継続のために、 備蓄が緊急復旧か？

東京海洋大学教授 苦瀬博仁

●●● 新潟県中越沖地震

「天災は忘れたころにやってくる」というが、皮肉なことに7月16日の「海の日」に、海底を震源とする新潟県中越沖地震が発生した。

被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧を祈念しています。

●●● 医療活動の現地調査

併任先の東大のホスピタル・ロジスティクス講座では、被災地での医療活動について現地調査をした。

病院によっては、医師の不在により、一般医薬品しか渡せない状況もあったらしい。避難所では、消毒薬、うがい薬、虫刺され用の薬、風邪薬などが多く必要だったとのこと。ただし心配された医薬品の不足は起こらず、備蓄や緊急配送で間に合ったようだ。

その一方で、被災直後には、停電で医療器具の滅菌処理や薬の調剤ができなかったり、断水により手術や透析ができなかった病院もあった。医療機器を稼働させるための電気や水の重要性が、あらためて認識された。

●●● サプライチェーンの断絶

自動車部品工場の被災も、話題になった。

経営資源を集中させて数少ない工

場で生産し、ジャスト・イン・タイムで顧客に届けることで、在庫も削減できコストも安くなる。この平常時にはムダを排除する生産方式も、災害時については2つの見方があった。

1つは、在庫も少なく部品供給もできなくなれば、生産ラインまでが止まるから、多少の在庫は必要というものである。部品工場の被災によって、自動車メーカーは軒並み3日間程度の操業停止となった⁽¹⁾。

もう1つは、必要な部品の優先順位がすぐに把握できるから、生産再開に必要な手当てもすぐ分かり、復旧も速いというものである。自動車メーカーから総勢800人の応援もあって、被災後1週間ほどで生産再開にこぎつけた⁽²⁾⁽³⁾。

●●● 災害やリスクへの備え

グローバルなサプライチェーンでは、リスク対策の例も多い。あるパソコン組み立てメーカーは、部品にはなるべく汎用品を使い、しかも調達先を各国に分散させているとのこと。ある電気部品メーカーは、1国に複数の工場を集中させるとリスクが高まると考え、輸送距離が長くなるものの、あえて隣国に工場を設けている。

国内にも事例はある。「東京都市圏の需要からすれば、いまの配送センターの数で十分と思うが、なぜもう1つセンターが必要なのか」と、ある日用雑貨品メーカーのロジスティ



万全な防災対策

クス担当者に聞いたことがある。「いまの配送センターが地域的に集中しているので、地震が起きれば全滅する恐れがある。もう1つを離れた地域に配置すれば、どこかのセンターが生き残るはず」とのことだった。

「災害時にこそ商品を供給する社会的責任（CSR：Corporate Social Responsibility）^{（注1）}」であり、「企業の業務を継続して遂行するための計画（BCP：Business Continuity Plan）^{（注2）}」と受け取りたい。

●●● 業務継続のために ●●●


いざ災害にあって、ロジスティクスが滞ったりサプライチェーンが途切れたら、人々の生活維持や企業活動の継続も難しくなる。

食料など生存に欠かせない商品と、部品などの工業製品では考え方も異

なるだろうが、平常時の在庫削減だけでなく、災害に備えて備蓄対策や復旧対策も考えておきたい。

また、電気や水道などのライフラインが被災することもあるから、ハイテクなコンピューターシステムだけでなく、被災時にも利用できるローテクシステムも考えておきたい。

「天災を忘れずに準備」しておけば、被害も小さくできるだろうし、

復旧も早いと思うのである。 

- (1) 中越沖地震でリケン被災、週刊エコノミスト、2007,8,7号、pp12-13
 - (2) 1週間で再開被災に工場で見えたトヨタの現場力、週刊東洋経済、2007,8,4、pp16-17
 - (3) メタルカラーの時代、週刊ポスト 2007,8,10号、pp152-155
- （注1）CSR：持続可能な社会の実現のために、企業が社会や環境などについても責任を持つべきとの考え方。
 （注2）BCP：災害やテロなどの予期せぬ事態が発生しても、業務を継続可能とする計画のこと。防災対策やセキュリティ対策の一環でもある。

Profile

東京海洋大学 海洋工学部
流通情報工学科 教授

苦瀬博仁

（くせ ひろひと）1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長、評議員を経て、06年4月より流通情報工学科長。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授（併任）。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」（税務経理協会）、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」（丸善）、「マニラ・エンジョイ・トラブル」（論創社）、「明日の都市交通政策」（成文堂）、「都市の物流マネジメント」（勁草書房） <http://www2.kaiyodai.ac.jp/kuse/>

